

## トランポリン

### スプリング



正常な状態



変形して危険な状態

スプリングが伸びたり、変形したものは、適切なりバウンドが得られなかったり、フック部分から折れけがにつながる恐れがあります。危険ですので交換を行ってからご使用ください。

※フレームパットの上を直接跳ぶと、スプリングが変形・破損する原因となりますので、注意してご使用ください。

### フレーム(スプリング固定孔)



正常な状態



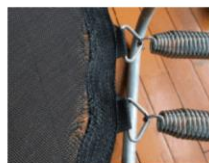
孔が拡がり危険な状態

スプリング固定の孔長さは10mmありますが、使用するにつれ拡がってきます。

上記写真は、孔長さが20mmまで拡がりスプリングのフックがフレームから貫通して危険な状態です。フックが固定され、スプリングが折れるなど、けがにつながる恐れがあります。

固定の孔長さが15mmを超えたら危険ですので修理、交換を行ってからご使用ください。

### ベッド



糸の解れ、生地への破れにより、足をとられ思わぬけがや事故につながる恐れがあります。

三角カンが外れた状態で使用すると、スプリングが外れ、適切なりバウンドが得られなかったり、外れたスプリングにより思わぬけがや事故につながる恐れがあります。

危険ですので修理、交換を行ってからご使用ください。

### フレームパット



縫裂糸の解れ、表生地への摩擦、破れにより、足をとられ思わぬけがや事故につながる恐れがあります。

危険ですので修理、交換を行ってからご使用ください。

## スイング

### ロープ・バンジーコード



外被が磨耗してささくれた繊維が飛び出した状態のロープは、ロープの切断により思わぬけがや事故につながる恐れがあります。

危険ですので交換を行ってからご使用ください。

※一点で吊るすスイングをご使用する場合、吊るしのロープに回転によるねじれで負担が掛かりますので、負担を軽減する回転カラビナの使用をお勧めします。

### カラビナ



外被が磨耗してささくれた繊維が飛び出した状態のロープは、ロープの切断により思わぬけがや事故につながる恐れがあります。危険ですので交換を行ってからご使用ください。

※一点で吊るすスイングをご使用する場合、吊るしのロープに回転によるねじれで負担が掛かりますので、負担を軽減する回転カラビナの使用をお勧めします。

### 表生地



表生地への摩擦、破れや、止め金具の外れ、緩みが生じている場合、指がはさまったり金具の突起により思わぬけがや事故につながる恐れがあります。

危険ですので修理、交換を行ってからご使用ください。

## ボルダリング

### 【破損や回転、または怪我をさけるために定期的な以下のチェックをしてください】

1. ボルトのゆるみによってホールドが回転することがないよう、チェックと必要に応じて増し締めや回転防止のビス打ちをしてください
2. インパクトドライバーなどの強いトルクでボルトを締めると、ホールドが割れたり、ヒビが入ったりすることがあります。また、ホールドの底面が接する壁が繊維強化プラスチック（FRP）など、壁の表面に凹凸がある場合、ホールドとの接地面に均一な力がかからないため割れる可能性があるため、締め過ぎないように注意してください。特に薄いもの、小さいホールドなどはレンチで手締めすることを強くお勧めします。
3. 使用が少なくても、季節の変わり目には主に温度と湿度によりボルトやビスがゆるむ可能性がありますので、定期的なボルトやビスの増し締めをしてください。
4. ヒビが入ったホールド、割れたホールドがないか定期的にチェックするとともに、そのようなホールドがあった場合は、絶対に使用しないでください。
5. ボルトの締めすぎ、ホールドの劣化、不当な扱いなどによって、ホールドにひびが入ったり、割れる可能性があります。
6. ホールドはボルトで固定し、さらにビス止め穴のあるホールドは必ずすべての穴をビス止めしてください。
7. ビス止め穴ガイド（小さなくぼみ）がついているホールドは、そこに鉄鋼ドリルまたはコンクリートドリルなど（4～5mm）で穴を開け、ビス止めすることで回転を防ぐことができます。
8. ビス止め（スクリューオンやポリウム）ホールドの固定の場合は全てのビス穴をビス止めしてください。
9. ダイナミックで危険なムーブは、ホールドや壁の破損だけでなく、ケガにもつながります。課題を設定する際は安全に十分配慮してください。